

中3・高1からの数学

私立中学3年生や、高校1年生が4月にいきなり数学につまずきます。二次関数のところですね。私立中学3年生や高校1年生が習い始める数学ⅠAは、中学までの数学と違い、答えがいくつも出てきます。久留米市内の広告に私が紹介した面接試験の難関問題のように、「100円で40円の買い物をしたら、お釣りはいくらか？」という問題と同じです。中学生数学までは、「お釣り60円」で正解ですが、数学ⅠAの高校生数学からは「10円玉10枚なら、4枚を出してお釣りは0円。50円玉二枚なら、一枚を出してお釣りは10円」など、答えがいくつもあるわけです。それを問われる二次関数などで、まず数学がわからなくなります。そして、ここからが大事なんですが、なぜ「昔の子と違い、今の子は塾や予備校が必要なのか？」という、保護者のみなさんの疑問ですね。保護者のみなさんは、昔高校1年生だった頃、わからないなりに乗り越えて来られました。でも、今の子供はなぜ、同じものが乗り越えられないのか？答えは「少子化です」。今の保護者の学年より、今の中高生の学年の方が、大袈裟に言いますと「生徒数が半分」になっています。ですから、単純に「昔のその中学高校の生徒と同等の生徒は、半数になっている」と思われても、まだ甘いのです。上のランクの学校が、下のランクの学校の成績優秀者を受け入れているのですから、昔の生徒と同等の生徒なんて、いなくなっているのです。わかり易い例は、課外授業です。中学や高校で、昔は課外授業が無かったのに、今は行われています。それは、今の学生たちが昔からのその学校のカリキュラムについて行けてないからです。学校の先生方も、馬鹿ではありませんので、そうやってレベルが下がり続ける今時の子供たちに合わせて、授業内容などを工夫されています。しかし、無理もあります。「これ以上は、授業内容を下げられない！」そういうところが、どこの学校にもあります。そして、今の子供たちは少子化のために、進学校に入る力が無いのに入っています。それでは、ついていけないのです。よって、今時の私立中学生や高校生が塾や予備校に通うのは仕方ないことです。ベビーブームだった昔とは、状況が違います。そして、ここで間違えてはいけないのが、彼らが必要としているのは「授業」ではなく「質問」です。久留米自習室のような、マンツーマンの指導が流行っていて、集団授業と言いますか、一方通行の授業が廃れている理由はそこです。彼らは、塾や予備校からの「押し付けられる授業」ではなく、「自分たちが習いたい事」が欲しいのです。そして、そのままではもちろんいけません。そこから、入試へ向けて「何が必要か？」という事を、特に数学の質問申し込みが大量に出てくる4月から、じっくりと指導していく必要があります。私立中学3年生や高校1年生は、数学でパニックになっている状態ですから、早く立て直す必要があります。そうしないと、高校1年生の英語が3ヶ月から4ヶ月習った辺りですつまずきます。自動詞とか他動詞とか、動詞の見分け方がわからないなど出てきます。そうなる前に、数学のパニックをなんとかしなければなりません。ここで数学を立て直さないと、「数学を捨てて、私立文系に進みます」となってしまいます。それがもったいないのです。数学を捨てなくて良いように、最初の高校数学「数学ⅠA」に入ったところが勝負になります。